<table>
<tr><td rowspan="2">No</td><td rowspan="2">提　案　名</td><td colspan="3">提案団体名</td></tr>
<tr><td colspan="2">代表者氏名</td><td>所　属</td></tr>
<tr><td rowspan="2">9</td><td rowspan="2">ふるさと宮まつりを利用したまちづくり</td><td colspan="3">帝京大学　帝京宇都宮まちづくり研究会</td></tr>
<tr><td colspan="2">広瀬　真太郎</td><td>帝京大学　経済学部</td></tr>
<tr><td colspan="4"></td><td>指導教官
氏　　名</td><td>溝口　佳宏</td></tr>
</table>

１　提案の要旨

今年で第 37 回となる宮まつりは開催当初から市民参加を目的としており、また県内外に宇都宮市をアピールするよい機会であることから、宇都宮のまちづくりに活かす潜在力を多く持っているイベントである。しかし、宮まつり当初から問題視されてきたゴミ問題が、近年より深刻になっている。宮まつりの観客数は年々増加しているものの、主催者側の人数が変化していないことから、企業や団体による清掃活動の協力を得ているものの、ごみの処理が追いついていない。そのため、宮まつりの後のごみ処理に関して、近隣住民にしわ寄せがきているのが現状である。この状態を放置することは、宮まつりの持続可能性に大きなマイナスとなる可能性がある。宮まつりは、宇都宮のまちづくりに活かす潜在力を多く持っている点を踏まえると、宮まつりを今後も継続して実施するのは重要である。そして、宮まつりを継続して実施していくためには、近年深刻となっているごみ問題を解決する必要がある。

その対策として、宮まつりにおけるゴミ問題に対する意識の向上と、解決に向けた１つの手段を提供するのを目的としたスタンプラリーを提案する。このスタンプラリーは、単にごみ問題に関する部分で有効なだけではなく、追加的な効果も期待できる。その効果２つあり、1 つ目は増加した観客の回遊を促すのを通じて、会場周辺の商店街の紹介が可能になる効果である。2 つ目は、日常生活において、安全・安心なコミュニティをつくる契機になる効果である。

２　提案の目標

宮まつり終了後に大量のごみが残され、ごみ処理に関して近隣の住民の皆さんにしわ寄せがいくのを多少なりとも解消し、持続可能性を保った形で宮まつりを実施し続けることを目標として、観客を含めた宮まつりの参加者を対象に、ごみの回収を目的としたスタンプラリーを実施する。このスタンプラリーを実施することで、宮まつりの参加者が、ごみの削減を意識した形で宮まつりに参加するとともに、宮まつりの参加者が単にまつりだけに意識を向けるのではなく、近隣の商店街にも意識を向けるのを促す。そして、宮まつりでのごみ処理を通じて、ごみの処理を通じた宇都宮の環境の向上、地域の安全・安心なまちづくり、中心市街地の商店街の再生と活性化が実現する状態を目指す。

３　現状の分析と課題

3.1　なぜ宮まつりに注目するのか?

地域を活性化し、その地域の魅力を引き出すためには、地域の人々が交流する空間だけではなく、その地域の住民の人たちが取り組む活動が重要である。鳴海(2003)は、都市の魅力を生み出す要素として、オープンスペースにおける地域住民の活動の重要性を指摘している。祭りは、地域の住民が取り組む活動の 1 つとして挙げられ、都市・田舎を問わず様々なところで行われている。しかし、その多くは地域内のみで行われているので、その地域の魅力を引き出すという観点は、あまり意識されていない。そして、その観点があまり意識されていないので、祭りとまちづくりとの関連が、あまり意識されない。しかし、祭りはオープンスペースを活用して行われるので、鳴海(2003)での指摘を踏まえると、都市の魅力を引き出す要素として位置付けられる。それゆえに、祭りは都市の魅力を生み出す要素としての潜在力を持っていると考えられる。例えば、大田原市で行われている「与一まつり」は、芸能人をゲストとして呼ぶのを通じて観客数を伸ばしており、その伸びを通じて一時的ではあるが、地域の活性化につながっている。そこで、祭りとまちづくりの関係について改めて調べ、都市における祭りの位置づけについて再評価してみたいと考えた。

宇都宮における祭りには、二荒山神社が主催する祭りなど多様な祭りが存在するが、私たちはふるさと宮まつりに着目した。宮まつりは規模が大きく、地域住民や近隣住民が多く参加する一大イベントである。また、辻・宮田・リザ(2000)が指摘するように、宮まつりの「心のふれあい・人の輪を」や「市民参加」という趣旨、「郷土文化の向上、明るい豊かな地域づくり」という目的は、祭りとまちづくりの関係について分析する際の題材として適していると考えるからである。

また、鳴海(2003)は、祭りは伝統的な特質をもつものであり、その地域に古くから伝えられているものか、あるいは他地域の伝統的な祭りが模倣ないし移植された催しであることを指摘している。そして、模倣ないし移植される場合、あるいはいったん廃れた祭りを再活性化する場合は、それをリードする人間の資質が重要な役割を果たしていることが多いのを指摘している。この指摘を踏まえると、祭りを企画して実行することや、行われている祭りを活気のある祭りとして持続することは、まちづくりを実際に行う際に必要とされる事柄の多くを含んでいるとも考えられる。よって、宇都宮のまちづくり提案の 1 つとして、ふるさと宮まつりを題材とすることは、十分に意義がある。

3.2　宮まつりの現状と「ごみ問題」

「宮まつり」は今年で 37 回を迎え、55 万人もの観客を集客する大きなふれあいの場となっている。しかし、宮まつりが行われた当初から、ごみの処理が問題視されていた。そして近年は、観客数が増加するに伴い、祭りの開催時に出されるゴミの量が年々増加している。辻・宮田・リザ(2000)は、現在の観客規模は第 25 回(2000 年)以降続いており、毎年のごみの量は一日約 40 トンに及んでいることを指摘している。

祭り終了後に残されたごみの処理に関しては、宮まつり実行委員会、宮まつりに協賛している

企業、会場近隣の住民が中心となっている。宮まつり実行委員会は、まつり終了後の約 20 分間「クリーン大作戦」と題した会場内清掃を、スタッフ・参加者全員を対象に毎年行っている。また、開催期間中は 70 ヵ所近くのゴミ回収ボックスを設置しており、その様子は写真 1 のようになっている。しかし、実行委員会のメンバーが不足していることもあり、これ以外の手段について特に大きなものはなく、「まつり開催中に場内放送にてゴミの持ち帰りを呼びかけているが、今後呼びかけ以外の得策を模索しなければならない。」としている。また、ごみ回収ボックスの設置はある程度なされているものの、増え続けるごみの量に十分対応できておらず、至る所にごみが散乱している状況である。その状況は写真 2 のようになっている。

宮まつりに協賛している企業の取り組みについて紹介する。まず、JT（日本たばこ産業株式会社）が主催するゴミ拾い活動だ。これは「ひろえばまちが好きになる運動」とよばれている活動で、イベント・お祭りの会場内で、来場した市民にゴミ袋やトングといった清掃用具を配布し、ゴミ拾い活動への参加を募り、協力してもらう美化活動である。宮まつりでは 2004 年から毎年行われるようになり、恒例行事の 1 つとなっている。2012 年度第 37 回では、8 月 4 日と 5 日の 2 日間で 725 人の市民がこの活動に参加し、約 360kg のゴミが回収された。活動の様子は写真 3、写真 4 で表されている。また、JT だけではなく、「足利銀行」「とちぎテレビ」「ダスキン」等の各社の協賛・協力で、ごみの回収作業が実施されている。協賛企業によるこれらの取り組みは、子ども連れの親子やシニアの方、若いカップルなどが清掃活動に参加しやすい形態となっている。そのため、活動への参加が、ゴミを出さないことやごみをきれいに捨てるといった清掃活動への効果として反映され、マナー自体も向上していると評価できる。

会場周辺の地域住民による取り組みについて説明する。祭りの開催時に出るごみの処理については、会場周辺の地域住民が清掃活動を行うことが例年恒例となっている。宮まつりは土曜日と日曜日に行われるが、会場周辺の地域住民は日曜日の朝と夜中、および翌月曜日の早朝に、メイン会場周辺（特にオリオン通り）の清掃を行っている。また、近隣中学校でも翌月曜日の早朝からの清掃活動に取り組んでいる。しかし、近年のごみの増加に伴って、ごみを処理しきれない状況になっている。よって、来場者の主要な通行路として利用される大通りやオリオン通り周辺の地域住民に対する負担は、非常に大きくなっているのが現状である。

（写真１）

（写真２）

(写真 3)

(写真 4)

４　施策事業の提案

現状の分析と課題では、祭りとまちづくりとの関係に関してふれたのち、宮まつりの現状について、ごみ問題に焦点をあてながら言及した。宮まつりは 55 万人の集客力を持ったイベントであり、宇都宮のまちづくりや都市としての魅力を引き出すための材料として大きな潜在力を持っている点を指摘した。一方で、宮まつりの実施に伴って発生するごみは増加しており、その処理において特に会場周辺の地域住民にかかっている負担が非常に大きくなっている点を指摘した。そして、ごみ問題を解決する方法の 1 つとして、JT が主催している「ひろえばまちが好きになる運動」を取り上げ、清掃活動に参加しやすくする設定が、マナーの向上も含めた形で、ごみ処理に関する負担を減らす効果として現れることを指摘した。

その点を踏まえて、私たちは協賛企業が行っている清掃活動を補完するものとして、スタンプラリーを提案する。このスタンプラリーは、ごみの収集と組み合わせることで、宮まつりのごみ問題を解決する 1 つの方法として位置付けられる。同時に、宮まつりに訪れた人々を、大通りやオリオン通りだけに集中させることを防ぎ、会場周辺を回遊させるよう誘発するのを通じて、周辺の商店街の紹介につなげるのをねらっている。さらに、会場周辺の地域の人々との交流を促進するのを通じて、地域の振興と活性化につなげてゆく効果もねらっている。

具体的な形式は以下の通りである。

・宮まつり会場内に数箇所のスタンプ集印場所を設ける。
・宮まつりのスケジュールの冊子とともにスタンプラリー用紙を配布してもらう。
　その他、スタンプを押す台紙（用紙）を県の HP 等に掲載し、各自で印刷してもらう。
・コースは定めず、宮まつりを巡りながらスタンプ集印場所も巡ってもらう。
・通常スタンプとは別にゴミ収集スタンプを設ける。
　スタンプ集印場所で申請することにより指定のゴミ袋がもらえ、宮まつり会場内の簡単なゴミ拾いをしてもらう。ある程度ゴミが溜まったらスタンプ集印場所でゴミ収集スタンプを押印、ゴミを回収してもらう。スタンプラリー終了後に景品と交換してもらう。（スタンプラリー景品はプラン A・B により変更）

（プラン A）
定数個のスタンプ（ex.通常スタンプ約 5・6 個、ゴミ収集スタンプ約 2・3 個）を定め、その一定個数が集まったら宮まつり内の屋台の無料券・半額券を景品としてあげる。

（プラン B）
ゴミ収集スタンプにおいて、集印したスタンプの数に応じて各屋台の値段から割引をしても

らう。（ex.1 個で 50 円引き、２個で 100 円引き、3 個で 200 円引き…）

さらに、ごみ問題の解決に向けた 1 つの方策として、以下の事柄も並行して行う。

・スタンプ集印場所に年度ごとのゴミの推移等を表示したポスターを掲示し、「ゴミ問題」への意識を高めてもらう。
・屋台で出たゴミのポイ捨てを解消する為、各屋台へゴミ箱設置の呼びかけをする。

この形式を実施することによる問題点は、以下の点が挙げられる。

・屋台側の協力が必要である。特に、プラン B を採用する場合は、値引きに同意してもらうために各屋台に対する補償金が必要となる。その財源をどのように確保するかが重要である。
・集印場所ごとに人員が必要になる。現状でも、実行委員会のメンバーは人員不足になっているために、実行委員会のメンバーから人員を捻出するのは難しいと考えられる。そのため、ボランティアの募集などを事前に実施することが必要と考える。

先にも記したが、スタンプラリーを実施する利点としては、以下のような点が挙げられる。

・回遊行動を誘発し定着化している観客の行動範囲を拡散させることにより、地域の各商店等に利益をもたらし、地域の人々との交流を深めることができる。
・市民の皆さんに「ゴミ問題」に対する強い意識をもってもらう機会ができるために、環境の向上という観点からの宇都宮市のまちづくりについて、市民の皆さんの意識を喚起できる。

特に、「ごみ問題」に対する意識を市民の皆さんが高めることで、環境に対する意識が喚起された場合には、中長期的に次のような副次的な効果が期待できる。それは、住民の皆さんが積極的に良い環境を作ろうと心がけるのに伴う効果である。具体的には、環境がよくなると、環境の良さを評価して、その地域に住民が流入することが考えられる。これは、地域の住民の増加を通じて地域の活性化につながると考えられる。また、環境がよくなることは住みやすさにつながるので、宇都宮市が提唱している「住めば愉快だ宇都宮」に合致すると考えられる。さらに、環境をよい状態に保つことは、その地域の状態に絶えず目を配ることにつながるので、治安の悪化を防ぐことが期待でき、安全・安心なまちづくりにつながると考えられる。安全・安心なまちづくりをめざす動きも、宇都宮市が提唱している「住めば愉快だ宇都宮」に合致すると考えられる。

５　まとめと今後の課題

宮まつりは宇都宮市の代表的イベントとして、知名度と集客力を持っている。よって、宇都宮のまちづくりを進めるための有力な素材の 1 つとして位置づけられる。一方で、宮まつりをまちづくりの素材として生かすためには、いくつかの問題点もある。今回私たちは、その中でゴミ問題について取り上げた。

ゴミ問題では、年々観客数が増えることに伴うゴミの増加と主催者側の人数の減少から、ゴミ

の処理が追いつかなくなっており、企業や団体が清掃活動を行って一定の効果はあるものの、近隣住民に迷惑をかけているのが現状である。このことから、協賛企業の行っている清掃活動を補完するものとして、宮まつりの観客が積極的にゴミ拾いに参加できるような案として、スタンプラリーを考えつき提案した。宮まつりの会場および周辺の各所にスタンプラリーコーナーを設けることで、訪れた人々の回遊を促すとともに、地域住民には娯楽の一つとして、それ以外の人には宮まつりの案内も兼ねて、楽しみながら「ゴミ問題」に対する意識を持ってもらう企画である。

その上、スタンプをためる過程で宇都宮市の中心部を回遊してもらうのを通じて、宇都宮市をアピールすることもでき、地域住民の交流を深めることや地域活性化にもつながる。また、このスタンプラリー案を用いることで、ごみや環境に関する問題に対する意識を喚起できた場合は、先に示したような副次的な効果も期待できる。

宮まつりを調べ、ゴミ問題の解決策の 1 つを提示したが、この案はあくまでも 1 つの案であり、この案だけでごみ問題を完全に解決できるわけではない。施策の提案の部分で記したように、屋台側の理解や人員の確保が、問題として挙げられる。問題を解決するには、行政や企業、地域住民の連携が必要となろう。宮まつりは、地域住民の交流の場としては、開催委員会の目標をほぼ達成できているものの、まちづくりの素材として考えるとまだ活かしきれていない部分がある。先に記したように、宮まつりの現状での知名度と集客力を考えると、宇都宮を活性化できる力を十分に持っていると考える。宮まつりの運営に参加する人々の減少はすでに指摘しているが、今回の提案を踏まえて、私たちにとっての宮まつりへの係り方をどのようにするか、方針をさらに考えることは、私たちにとっての課題の 1 つである。また、祭りとまちづくりの関係に関する分析は、私たちにとってはまだ途中段階である。よって、今回の提案を踏まえつつ、ごみ問題を含めた他の論点についても、事例研究を含めた形で、調査分析を進める必要がある。この点も私たちにとっての課題である。

今回の私たちの提案が、宇都宮のまちづくりを進める 1 つの材料として、少しでも役に立てれば幸いである。

参考文献

・宇都宮市ホームページ、http://www.city.utsunomiya.tochigi.jp
写真 1 については
http://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/dbps_data/_material_/localhost/sougouseisaku/kohokocho/kohoshi_koho/2012/08/02-03.pdf
宇都宮市のごみの現状については
http://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/dbps_data/_material_/_files/000/000/002/602/H23gomihannnyuuryou.pdf
(2012 年 10 月 11 日アクセス)

・辻裕介・宮田弘美・リザ(2000)　「『宮まつり』におけるコミュニティー　-栃木県宇都宮市-」、行政学ジョイントゼミ in 館山、
(http://gyosei.mme.ustunomiya-u.ac.jp/2000joint/miyamaturi.htm)、
(2012 年 10 月 4 日アクセス)

・鳴海邦碩(2003)　「まちづくりにおける祭りの意義　そのダイナミズムとコミュニティ」、都市環境デザインセミナー　2003 年第 3 回報告、

(http://web.kyoto-inet.or.jp/org/gakugei/judi/semina/s0304/index.htm)
・ひろえばまちが好きになる運動　ホームページ、
http://www.jti.co.jp/sstyle/manners/clean/index.html
2012 年宮まつりでの活動報告については
http://www.jti.co.jp/sstyle/manners/clean/archive/2012/r120804_utsunomiya.html
(2012 年 10 月 9 日アクセス)
写真 3、写真 4 については
http://blog.canpan.info/machipia/archive/154
(2012 年 10 月 9 日アクセス)
・ふるさと宮まつり開催委員会　オフィシャルホームページ、http://www.miyamatsuri.com
(2012 年 7 月 10 日アクセス)
写真 2 については http://www.miyamatsuri.com/history.html
(2012 年 10 月 12 日アクセス)